

弥彦菊まつりとは



永年続けられてきた奉納切花大会が発展して、昭和36年（1961）、野上宮司を会長に「弥彦神社奉納菊花会」と改められるなか、第1回新潟県菊花展覧会が11月1日から24日まで開催され、県内はもとより東京方面からも切花のほか、約2,600点が出展されました。昭和37年には更に発展して「新潟県菊花連盟」と組織が改められ、現在は県下43部の組織になっています。

この展覧会新潟県、新潟県菊花連盟の共催で開催され、約4千鉢の菊花が出品される日本でも有数の展覧会に成長し、農林水産大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣の各大臣賞をはじめ神社本庁統理賞、県知事賞などが厳正な審査で決定されます。

新潟県菊花連盟では会発足当時、審査長には盆栽菊作りの最高権威者として名高い趣味の菊日本国香会会長の中島為次氏に委嘱し、その指導のもと、小菊部門の盆栽菊は芸術性、質、量ともに全国的にも最高のレベルに達し、中菊部門では「弥彦作り」という三種混合植え込みの独特のものを編み出し、大菊部門では「福助作り」にも力を入れるなど、それぞれに年々創意工夫を加え、内容も充実して全国有数の規模となりました。

この菊花大展覧会は「弥彦の菊まつり」とよばれており、秋の風物詩として広く知られ、期間中は県内外からの観菊団体をはじめ、菊作りの専門家や参拝観菊者でにぎわいをみせ、さらに、おおよそ畳60畳敷き分を菊の挿し芽で全国の景勝地を造園する「風景花壇」は特に人気が高くなっています。